



特集 できるときにできることから ボランティア活動



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo

若草婦人研修の家で行われている「なかよしサロン」の様子です。
地域包括支援センターの職員さんに、介護予防効果のある「ふまねっと」を教わりました。

CONTENTS

- P 2 特集 できるときにできることからボランティア活動
- P 4 じぶんの町を良くするしくみ 赤い羽根共同募金
- P 6 きずなかわら版・社協寄付金
- P 7 ふれあいフェスティバル2018のぼりべつ
きずなのまちびと
- P 8 きずなシンポジウム
15年ありがとう！子育てサロンどんぐりココロ



2018
09.01 No.137

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
 [事務局] 登別市片倉町6-9-1 登別市総合福祉センターしんた21内
 [TEL] 0143-88-0860
 [FAX] 0143-88-4546
 [mail] info@kizuna-shakyo.jp
 [HP] http://kizuna-shakyo.jp/
 [Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

ボランティア活動は、誰もが暮らしやすい豊かな社会を目指して、自分のできることを周りの人たちと協力しながら行う支え合い活動です。

登別市ボランティアセンターでは、「ボランティアをしたい人」と「してもらいたい人」との調整を行う他、ボランティアに関する相談・情報提供、ボランティア活動への理解を深め住民参加を促進するための研修会や専門講座の開催、保険加入の手続き等、安心した活動のサポートを行っています。

■ ボランティアセンターを通じた地域の取り組み

・福祉の心を育てる出前福祉講座

子どもから大人まで、市民の福祉の心を育てる「出前福祉講座」を現在、市内の小学校を中心に実施しています。

当事者団体が活動している聴覚障がい者、視覚障がい者、身体障がい者の方々に「ご協力いただき、「普段の生活の中で不便なことや得意なこと多くありませんか」と同じように好きなことや得意なこと多くあり、地域の中でいきいきと生活している」ことを伝えていきます。

一方、地域で生活していくには周りの理解や手助けが必要であることや、不便を解消するための手段として手話や点字、ガイドヘルプ、車いす等を利用しながら生活していることも伝え、それらを当事者の方と一緒に体験



▲幌別小学校の出前福祉講座の様子

する中で、「今後登別で障がいの有無に関わらず、共に支え合って生活するためにはどのようなことが必要か」について考えていく内容となっています。

ボランティアセンターでは福祉にまつわる学習の企画調整や資料の貸し出し、講師派遣等ご希望に合わせ調整を行いますので、授業の他、社員研修にもぜひご利用ください。

《講座を受けた小学生の声》

●障がいのある人も自分たちと同じようにいろいろなことを楽しんで生活していることがわかった。

●ちょっとした段差が、車椅子を使い生活している人にとっては大きな段差だということがわかったので、車椅子を利用している人がいたらお手伝いしたい。

●お年寄りや障がいのある人がいたら手を支えてあげたり、自分達にできるサポートをすることが大事だと思った。

●目が見えなくてもできることがあるのだと初めて知った。ただ、できないこともあるのでそこは助け合いが必要だと思った。

・楽しみながら広がった出会いと経験

北海道登別日中等教育学校6年生
清野梨帆さん、佐藤安侅さん、芦浦暖乃さん

わたし達3人は、2年前に社協が主催する演芸会の運営ボランティアをしたことがきっかけで親しくなり、それ以来、ボランティアセンターや学校の先生から紹介を受け、市内イベントのお手伝いや、施設で障がいのある方々と一緒に農作業体験をするなど、自分達のできるペースでボランティア活動に参加しています。

活動を通し出会った方々とふれあい、関わりが生まれていくことが楽しく、「ありがとう」とお礼を言ってもらえたり、笑顔が見られたりすると、喜びとやりがいを感じます。わたしたち高校生でもできることがある、誰かの役に立てるのだと嬉しさを感じる瞬間です。

ボランティア活動を始めたことで、人と関わる上でのコミュニケーション能力や行動力、その場に合わせた適応力が身に付いたと思います。学校という狭い範囲だけでは出会えない方々と知り合う中で、新しい気付きが多くあり、自分自身の視野も広がっていききました。将来の夢を考える中でも、その経験



▲左から清野さん、佐藤さん、芦浦さん

は活かされています。

これからボランティア活動を始めるという方には、難しく考え過ぎずに「まずはやってみて！」と伝えたいです。経験してみても初めてわかること、感じるものがきつとあると思います。どの分野の活動も関わってくれる若い世代



障がいのある子ども達との交流の様子

が必要としていきます。楽しみながらボランティア活動に取り組める後輩を見つけるため、わたし達で何か催しを企画することも検討しています。

・ボランティア活動を気軽に体験

ボランティアセンターでは、気軽にボランティア活動を体験できる「ボランティア体験プログラム」を3月31日まで実施しています。保育所や高齢者施設などで子どもたちや利用者の方とふれあう体験や、ボランティア団体の活動に参加する体験、障がいのある方とのイベントを通じた交流体験等、全54種類の中から気になる活動を体験することができます。

お申し込みについては、ボランティア体験メニュー表をご覧ください、ボランティアセンターまでご連絡ください。

(メニュー表は社協のホームページ、社協事務所をご覧ください(ただけです)体験内容は決まっていない



という方でも、ご相談に感じながらおすすめの活動を紹介することができます。ぜひこの機会にボランティア活動を体験してみませんか。

■まずはできることから

高齢化が進み地域で日頃からの支え合いが必要となっていく中、今後ボランティア活動はますます

Topic

災害ボランティア活動の心がまえ

全国各地で地震や台風等の自然災害が発生し、被災地では生活復旧や被災者支援のため多くのボランティアの力が必要になります。災害時のボランティア活動では、次の心がまえのもと活動しましょう。

①まずは情報収集

被災地の社協や全国社会福祉協議会のホームページから、ボランティア募集の有無、交通手段、持ち物等、まずは自分で正しい情報を収集しましょう。

②自分のことは自分で責任を持つ

健康管理や食事、宿泊場所の確保、行き帰りの交通費、貴重品の管理等、自分のことは自分で責任を持って行動しましょう。

③ボランティア保険に加入しましょう

活動にあたっては、ボランティア活動保険への加入が必要です。あらかじめお

す求められていくことが想定されます。まずは自分の関心のあることや楽しめることから、できることにできることからボランティア活動を始めてみませんか。
どんな活動があるのか紹介してほしい、ボランティア活動でこんな悩みがある等、お気軽にボランティアセンターへお問い合わせください。

住いの地域のボランティアセンターで手続きをしてください。

④寄り添う気持ちを大切に

被災者の方の心に寄り添うことを大切にし、必要とされている支援は何なのかを傾けながら活動しましょう。被災地で活動する以外にも、「義援金」というかたちでの支援もできます。義援金について詳しくは5ページでご紹介しています。



北海道災害ボランティアセンター



登別市ボランティアセンター (平日9:00~17:30、年末年始除く)
登別市片倉町6-9-1しんた21 登別市社会福祉協議会内
TEL: 88-2080 FAX: 88-4546

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

運動期間 10月1日～12月31日まで

目標額 710万円

※共同募金は、社会福祉法に位置付けられた募金活動です。



△北海道登別明目中等教育学校の生徒による学校募金の様子

赤い羽根共同募金運動がはじまります

今年も10月より赤い羽根共同募金運動がはじまります。12月までの3か月間、戸別募金をはじめ様々な方法で募金活動が行われます。

募金の使いみち

市民の皆さんにご協力いただく募金の約7割が登別の福祉活動に、約3割が全道規模の広域的な福祉活動等に活用されます。

さまざまな募金方法

戸別募金 …… 町内会を通じて各家庭に寄付を呼びかける募金方法です。

街頭募金 …… ボランティアの皆様が街頭に立ち、寄付を呼びかける募金方法です。

法人募金 …… 企業等を訪問して寄付を呼びかける募金方法です。

篤志家募金 …… 個人宅を訪問して寄付を呼びかける募金方法です。

職域募金 …… 会社などで働いている人に寄付を呼びかける募金方法です。

学校募金 …… 学校内で寄付を呼びかける募金方法です。

イベント募金 …… 各種イベントで寄付を呼びかける募金方法です。

その他にも、募金箱の設置など、皆さん一人ひとりのできるカタチでご協力をお願いします。

あなたの地域でイベント募金

年間を通して市内の各種イベントでブースを設け、イベント募金を実施しています。市内のお祭り、町内会・企業・団体等の身近なイベントでのぼり旗や募金箱等を設置させていただきPR活動を行っています。設置が可能な機会がありましたらご連絡ください。

寄付金付き記念バッジ完成!

「登別市PRキャラクター登夢くん」と「クマ」

赤い羽根共同募金限定のご当地バッジが今年も登場! デザインは日本工学院北海道専門学校
の学生さんにお願いしました。市内各所にて取
扱いしておりますので、ご希望の方は本会ま
でご連絡ください。

《商品取扱い場所》 8月2日現在

登別市役所内母子会売店・登別パークサービ
センター売店・登別市社会福祉協議会・市内
イベント時の赤い羽根共同募金ブース



災害義援金を受け付けています

共同募金会では、今年7月に西日本を襲った豪雨災害をはじめ、左記の
災害により被災された方を支援するための義援金を受け付けています。
被災者が安心できる生活を一刻も早く取り戻すため、災害義援金へのこ
の力をお願いいたします。

なお、救援物資については受付できませんのでご了承ください。

《現在募集中の義援金》

平成30年7月豪雨災害義援金

【募集期間】平成30年7月10日(火) ～平成30年9月28日(金)

平成30年大府北部地震義援金

【募集期間】平成30年6月22日(金) ～平成30年9月28日(金)

平成28年熊本地震義援金

【募集期間】平成28年4月18日(月) ～平成31年3月31日(日)

※お寄せいただいた義援金は、全額が被災した都道府県に届けられ、義援
金配分委員会の決定に基づいて被災者に公平に配分されます。

※法人・企業による募金(寄付)の取扱いについて

共同募金は、財務省からの指定寄付金として認められており、寄付に対する優遇措置の対象となつて
います。法人・企業が共同募金に寄付をすると、その全額を損金の額に算入することができます。

北海道全体の支え合い

各市町村で行う赤い羽根共同募金運動で集められた募金の約3割は、全道分
として集約され、全国の災害支援活動や道内の福祉活動を行うための助成とし
て活用されています。今年は登別市内で次の助成を受けました。

●赤い羽根テント助成事業

登別社協の「きずな赤い羽根テント助成事業」を通じて、今年も新和会と柏
木町内会の2町内会にテント購入費用が助成されました。今後、町内会の行事
等で活躍する予定です。

●車両整備事業

登別社協の活動に使用する車両が助成されました。平成15年に助成されたり
フト付き車両とともに、地域福祉活動のほか共同募金委員会の活動に使用させ
ていただきます。

●施設整備事業

登別さいわい福祉会が運営する障害福祉施設「サポートセンター心愛」へ、
身体に障がいのある方が入浴しやすいよう浴室の整備費用が助成されました。



▲車両贈呈式の様子



▲赤い羽根テント贈呈式の様子

お問合せ先

登別市共同募金委員会

電話: 88-10860

FAX: 88-14546

きずな がわら 版

講演会のお知らせ

「じぶんの町を良くするしくみを知ろう」

赤い羽根講演会

「赤い羽根共同募金」という言葉は知っていても、それが皆さんの日常生活の中でどれほど役立っているのかご存知でしょうか？

本講演会では、赤い羽根共同募金の仕組みと、道内、そして登別市内でどのように活用されているのかについて、身近な例を用いながらわかりやすくご説明いたします。

「じぶんの町を良くするしくみ」である赤い羽根共同募金について、ぜひこの機会に学びを深めませんか。

日時 平成30年9月18日(火) 13時30分～15時

会場 登別市民会館 中ホール

参加費 無料

対象 どなたでもご参加いただけます。
(ときめき大学連携講座です)

内容

● 赤い羽根共同募金のしくみ、道内での使いみちについて

社会福祉法人 北海道共同募金会
常務理事 天羽 啓 氏

● 登別市内での取り組みや使いみちについて
登別市共同募金委員会 事務局

その他 事前申し込みは不要です。

問い合わせ先

登別市共同募金委員会 (登別市社会福祉協議会)

登別市片倉町6丁目9-1 登別市総合福祉センター内

TEL.. 88-10860

FAX.. 88-14546



社協寄付金 (平成30年4月1日～7月31日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	寄付者名	寄付の目的	寄付金額
H30.04.05	室蘭民報社胆振中部支社	「新入学児童」新聞広告料の一部を社会福祉のために	30,000
H30.04.26	協同組合登別中央ショッピングセンター	愛の小箱 (ガチャガチャ)	4,000
H30.05.16	登別市社会福祉協議会	愛の小箱 (ハンドメイドガチャ)	2,100
H30.05.19	国際ソロプチミスト登別	チャリティーコンサート「愛のうたの夕べ」の益金の一部を社会福祉のために	30,000
H30.05.29	匿名	会議の費用弁償を社会福祉のために	1,020
H30.05.30	協同組合登別中央ショッピングセンター	愛の小箱 (ガチャガチャ)	4,800
H30.06.03	日本アマチュア歌謡連盟 N A K 室蘭支部	N A K 室蘭&舛甚3兄弟カラオケ大会の益金の一部を社会福祉のために	20,000
H30.06.06	いずみ亭	愛の小箱	22,257
H30.06.07	登別中央飲食店組合	チャリティーゴルフ大会の益金を社会福祉のために	50,000
H30.06.08	登別市社会福祉協議会	愛の小箱	11,735
H30.06.15	匿名	会議の費用弁償を社会福祉のために	2,694
H30.06.26	協同組合登別中央ショッピングセンター	愛の小箱 (ガチャガチャ)	1,200
H30.07.01	音楽周屋 一味の会	チャリティー 15周年記念発表会の益金の一部を社会福祉のために	20,000
H30.07.10	幌別地区ピールパーティー実行委員会	愛の小箱	317
H30.07.12	わしごうD愛好会	アークSD愛好会、わかきD愛好会と共催した第19回ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために	10,000
H30.07.17	鷺別地区ピールパーティー実行委員会	愛の小箱	170
H30.07.22	チャリティー『演歌名人会』実行委員会	チャリティー「演歌名人会」の益金の一部を社会福祉のために	10,000
H30.07.23	鷺別地区ピールパーティー実行委員会	第33回鷺別地区ピールパーティーの益金を社会福祉のために	93,778
H30.07.25	協同組合登別中央ショッピングセンター	愛の小箱 (ガチャガチャ)	1,500
H30.07.30	ヘアーハウスコバヤシ	愛の小箱	677
H30.07.31	トヨタカローラ苫小牧株式会社	トヨタカローラ苫小牧株式会社登別店で行ったイベントの益金を社会福祉のために	10,700

社協寄付物品 (平成30年4月1日～7月31日)

(敬称略)

受領年月日	寄付者名	寄付品名
H30.04.22	イオン北海道(株) イオン登別店	イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンギフトカード

ふれあいフェスティバル 2018のぼりべつ

すべての市民が地域社会の一員として自立し、安心して暮らせる心豊かな福祉社会の実現を目指し開催します。メインステージでは、ボランティア団体等による発表や、地域活動に貢献している85歳以上の方への「高齢者いきいきライフ表彰」などを行います。

日頃から地域福祉活動を実践している団体等がブースを設け、子どもから大人まで障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる交流の場を企画しています。お誘いあわせの上、ぜひお越しください！

日時 平成30年9月9日(日) 10時～14時30分

会場 登別市総合福祉センターしんた21

内容

ボランティア体験コーナー、チケットナンバース、焼き鳥やジンギスカンなどの販売(引換券制)、市内障がい者施設で作成するこだわりの商品の販売(現金販売)、子ども縁日コーナーなど

前売券

1枚千円(屋台で使える商品引換券7枚、チケットナンバース抽選券、子ども縁日利用券、伊達産野菜詰め合わせ抽選券付き)

9月7日(金)まで、本会事務所にて取り扱っています。



登別温泉
ペア宿泊券
があたります!

まぢびとのまぢびと

このコーナーでは、地域で精力的に活動されている方のきずな活動に対する想いや、これからの活動の展望などをお伝えします。

今回は、地域拠点丸ごと支え合い事業で運営スタッフとして活動されている佐孝 隆さんにお話を伺いました。

「健康づくりで地域へ恩返し」

地域拠点丸ごと支え合い事業運営スタッフ

佐孝 隆さん (千歳町在住)

わたしが健康づくりに関心を持ったきっかけは、ノルディックウォーキングに出会ったことでした。60歳で糖尿病と心筋梗塞を患い仕事を辞め、そこから



10年近く家でダラダラと過ごしていた結果、体力が落ち、いつしか歩く速さも妻に追い越されるようになっていました。このままではいけないと意を決し、広報誌で記事を見かけたノルディックウォーキング愛好会に飛び込みました。

会の皆さんが横に付き添って熱心に指導してください、まるで親族かのように温かく接していただいたおかげで続けることができ、身体への良い効果を実感しました。そこから運動や健康づくりに興味を持ち、講習会等へも自主的に通って知識を深め、地域のより多くの人に健康であってほしいとの想いから、サロン「ゲンキアップニナルカ」を立ち上げました。

もともと人と関わることは得意という訳ではありませんでしたが、健康づくりを始めたことで社

「まぢびとには、登別のまぢの人、問題とひとをマッチングさせる人、布の長さを補うまぢのように地域を補う人という意味が込められています。」

協やかなボランティア活動ともつながる機会が増えました。自分の健康や知識に自信が付いたことで、気が付くと昔の自分からは考えられないような積極性が持てるようになっていました。

わたしの活動の原動力は、皆さんに良くしていただいたことをお返ししたい、自分の学んだことを誰かのために活かしたいとの想いです。アーニス内で実施している地域拠点丸ごと支え合い事業のスタッフとして、事業開始時から体操の指導も行っています。家に帰っても皆さんに体操を実践してもらえよう、身体のごに効果があるか、また、日常の中で取り入れられる運動の方法等も伝えるようにしています。

また、利用会員さんが毎週会うたび楽しそうな笑顔を見せてくれるのが嬉しく、「もつと頑張つて活動したい」と思っています。おしゃべりをするのにも上手ではないですが、健康面の知識を伝えるながら、皆さんと良い関係性を築くことができていると感じています。

皆さんに知識を伝えるためには、勉強し続けなければなりません。自分自身も一人の高齢者として、少しでも長く体力を維持し、健康に地域の皆さんと活動していきたいです。

きずなシンポジウム

8月1日(水) したた21多目的ホールにおいて、登別のこれからの住民主体の福祉活動をともに考え進めていくことを目指し、「福祉の学びからつながり支え合いの実践へ」地域共生社会の実現に求められるもの」をテーマにきずなシンポジウムを開催しました。

前半は、北星学園大学福祉計画学科教授岡田直人氏より、「これから求められる地域共生社会のまちづくり」をテーマに講演をいただきました。「地域の中にある様々な課題や災害時への対応を見据え、日頃からの支え合い関係をつくり上げることが必要」「支えられる側だけでなく、支え手側も活動を通して生きがいや健康維持の機会を得て支えられている」「まちづくりにおいては今あるものの上手く活かし、支え手自らも楽しみながら緩やかにつな

りを作り上げていくことが必要」など、ともに支え合って地域で生活する上で必要なポイントをお話いただきました。

後半のシンポジウムでは、コーディネー



▶平成29年度の活動報告を行う
田淵純勝きずな推進委員長

ターにきずな大使である鳥居一頼氏を迎え、市内の活動の実践発表をもとに、登別流の地域共生社会の在り方への提言が行われました。

【実践発表のポイント】

●登別身体障害者福祉協会会長 今 順子氏
1人ではできないことも周りの協力があれば可能であり、障がいは不自由だが不幸ではない。支えられる側から声を出すことで、地域が良い方向へと変わっていくこともある。

●ふれあいサロン花園担当 島山基子氏
サロン活動を通し、個人の生活を支える必要性に気が付いたが、個人ボランティアだけで支えるには限界があると感じた。地域から生まれる新たな仕組みがこれから求められる。

●登別市地域包括支援センター「けいあい」センター長 西島智恵氏
高齢者や地域を取り巻く状況や生活課題の変化に対応するためには、地域だけで考えるのではなく、専門職を活用してほしい。

●登別社協地域福祉コーディネーター 大矢みはる
高齢者の居場所づくりと買い物支援を一体的に行う事業を実施する中で、現在の仕組みだけでは対応できない課題が新たに増えてきた。地域の拠点で様々な課題を支えられる仕組みをつくりたい。

それぞれの立場から考える地域への想いや活動報告を通し、学びを深める機会となりました。

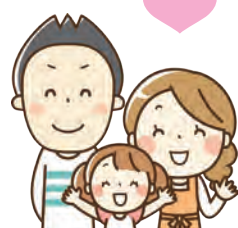
用語説明

地域共生社会
地域住民誰もがお互いに支え合い、役割と生きがいを持ちながら暮らし続けることができる社会のこと。平成30年4月の社会福祉法改正に伴い、国が描く地域の理想像に掲げられた。

15年ありがとう！

子育てサロン

どんぐりコロコロ



柏木町のごぶしの家で行われていた子育てサロン「どんぐりコロコロ」が、今年7月の活動をもって15年の歴史に幕を下ろしました。どんぐりコロコロは走り回って遊ぶ、誰もが自由にのびのび過ごすことのできる「屋根のある公園」として親しまれました。元保育士や民生委員・児童委員、町内会などの皆さんが迎えてくれる温かな居場所として、地域の子育てを見守る大きな役目を長年担って来ました。

7月26日の最後の活動には、これまで遊びに来ていた保育園生や小学生も集まり、総勢100名以上で毎年の恒例イベントである「流しそうめん」を行いました。どんぐりコロコロにお世話になったお母さん達から運営者さんへ感謝状と花束、手作りのメダルもプレゼントされ、涙あり笑顔ありの思い出に残る賑やかな1日となりました。

このサロンからたくさん笑顔が生まれ、多くの親子が支えられました。子ども達の健やかな成長を見守り続けてくれてありがとうございました。お疲れ様でした！

